

読書推進運動



公益社団法人
読書推進運動協議会

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271

発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子

定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.671

- ★「読書週間」はじまります!(2頁)
- ★「第53回 野間読書推進賞」受賞者発表(3頁)



「読書週間」によせて 手話でおしゃべりする読書会

作家

なしや
梨屋アリエ

2009年夏、12歳から19歳までを対象にした「YA読書クラブ」という読書会をはじめ、その翌年からは、年齢制限なく大人も子どももだれでも参加OKのYA小説の読書会「YA*c*a*f*e」を新たにはじめました。「YA*c*a*f*e」の参加者は、作家、翻訳家、編集者、司書などの本に関わる立場の方だけでなく、読書を愛する学生や社会人、子どもも本好きにしたい保護者などいろいろといます。

さて、今の文を読んだみなさんは、どんな姿の人たちをイメージしますか? ほとんどの方は、健常者だけを思い描いたのではないでしょう。恥ずかしながら、会の立ち上げ時にわたし自身、「だれでも」の中に障害を持つ方

をまったく想定してなかったのです。もちろん、障害のあるなしに関わらず「だれでも参加OK」なのは当然なのですが、問いあわせが来てからはじめて、会場の環境によって、参加する／しないを考えなくてはならない人がいることを知ったのです。市川沙央さんの芥川賞受賞作「ハンチバツク」では「健常者の特権性」ということが話題になりましたが、いつも多数派の中にいて難なく障壁を乗り越えられる人は、自身の特権性に無頓着なものです。主催者が「だれでも」ということばを使うなら、想定外の人を作ってはいけません。と反省し、その後は環境を意識するようになりました。「YA読書クラブ」は新型コロナの出現とともに活動停止

となつてしまいましたが「YA*c*a*f*e」は現在も池袋と横浜で続いています。そして今年から、3つ目の読書会「手話でYAカフェ」が始まりました。日常的に手話言語でコミュニケーションする人専用の読書会です。

わたしが手話に出会ったのは2020年の11月でした。JBBYのバリアフリー児童図書選考の経験をきっかけに、自分でもいつかバリアフリーの本を作りたいと思いはじめたとき、知人が紹介してくれたのが盲ろう者の若者でした。盲ろう者とは視覚と聴覚の重複障害のある人のことで、コミュニケーション方法は盲ベースの人とろうベースの人ではまったく異なり、その人にあった方法を使います。その若者はろうベースで第一言語が手話でした。手話は音声の日本語とは異なる文法を持つ言語です。実はその人に会うまでわたしは手話を使う人に会ったことがなく、無関心でした。手話通訳者を介して話すうちに、同じ日本に生まれて生活している人の中に、音声の日本語とは違う言語でコミュニケーションをする人がいることにやっと気づいたのでした。その後、手話とろう文化を学ぶうちに、「だれでも参加OK」の会は、「聴者向け」の会であつたと思いつたのです。わたしの手話は未熟ですが、地域のろう者の助言をうけ、池袋と横浜で手話の読書会をスタートしました。

手話サークルは日本各地にあります。手話による読書会はまだまだずらしく、関西地方で「Deaf Map」というろう者の読書会をはじめた方が、9月の池袋の会に見学を兼ねて参加してくださいました。各地で、手話言語による読書の交流の場が増えていくことを、期待しています。



お気に入りのしおりとともに 秋の夜長を本と過ごそう

10月27日(金)より、「読書週間」がはじまります。今年の標語は「わたしのペースでしおりは進む」。

空とも、本の海とも思えるブルーを背景に進んでいくしおりを描いた今年のポスター。今年もご好評をいただいています。「図書館だより」などへのポスター画像の掲載は、加工(縦横比率の変更、色の置き換え、画像の切り抜きなど)せずにそのままの形でしたら、問題ありません。SNSへの画像投稿も同様に、加工せずにお願いたします。

ポスターは公共図書館へは各道府県読書推進運動協議会・各都道府県立図書館、学校図書館へは全国学校図書館協議会、書店へは日本出版取次協会の協力により各販売会社を通じて配布しております。部数追加をご希望の施設や団体は、遠慮なく当協議会事務局へお申しつけください。

また、過去のポスターデータの貸出も例年同様に行っておりますので、興味をお持ちの方は事務局

までご連絡ください。

ホームページ「素材集」のブックやおり、ブックカバーのデータも公開しております。今後のデータ作成の参考といたしますので、活用事例など、ご意見、ご感想をぜひ、事務局までお寄せください。ポスターのJPEGデータもこちらにあります。

本年も、「読書週間」雑誌広告を用意し、日本雑誌協会の協力により各雑誌出版社へ掲載を呼びかけました。10月1日現在で、15社59誌の協力をいただいております。おもに10月中旬〜11月初旬発行の雑誌に掲載されます。掲載誌には、大きな話題となったものも多数ありますので、書店で見かけましたら、ぜひ、手にとってください。

書店では、先月ご紹介した図書カードNEXTが当たる「読者還元祭」が10月27日よりはじまります。また、11月1日「本の日」キャンペーンとして、参加書店では一般公募による「ブックカバーデザ



当会ホームページでデータ提供中のブックカバーとしおり

イン募集」大賞作品を用いたブックカバーを使用。その他、店頭「飾り付けコンクール」も予定されています。

全国の公共図書館、図書室で開催されました行事について、「読書週間」終了後に各道府県読書推進運動協議会より報告をいただき、来年4月に本紙別冊付録「行事報告一覧」を発行します。

2023年度・第53回

『野間読書推進賞』決定

9月15日(金)、東京都千代田区の出版クラブビルで行われた『第53回野間読書推進賞選考委員会』において、2023年度の受賞者が左記のとおり決定しました。

《団体の部》

・南種子町おはなし子ども会 (鹿児島県熊毛郡南種子町)

《個人の部》

・原田紗千子 (長野県木曾郡大桑村)

《奨励賞》

・やくも朗読サークル (北海道二海郡八雲町)
・鹿児島巖 (秋田県鹿角郡小坂町)

今年度の野間読書推進賞は、例年同様、道府県読書推進運動協議会や教育委員会などに受賞候補者の推薦をお願いしました。

いただいた推薦数は、団体の部20(前年16団体)、個人の部3(前年3人)です。

8月28日(月)に開かれた、事業委員会による第一次選考会では、事前に委員に資料を送付し、会議当日に各候補者への評価とその理由を討議、選考会に向けて11団体3個人を選出し、選考委員会に提出しました。

(敬称略)

おはなし子ども会の活動が地域コミュニティへの入口となっている点が高く評価されました。

個人の部受賞の原田紗千子さんは、長野県内の小学校・中学校の教鞭をとるなかで、子どもたちに本を手渡す活動をしたいと思い、1978年に子どもの本学習サークル「大桑子どもの本の会」を設立。その後、1992年に早期退職し、大学で図書館学について学び、2000年に家庭文庫「ぶんこもも」を開設、4000冊の蔵書を開放してきました。また、木曾地域全体の講演会講師も務め、子どもの読書推進の大切さを広く発信してきました。

奨励賞のやくも朗読サークルは、2006年の発足以来、朗読

技術の鍛錬に努めて、多彩な音読資料を図書館へ寄贈。また、図書館と連携しての朗読会も継続して開催しています。音読資料は、一般図書だけではなく、町広報紙、新聞記事にもおよび、「生きるための情報」を提供する姿勢が評価されました。また、地元作家の作品朗読会も受賞の一因です。

鹿角巖さんは2008年から小坂町立小坂図書館の事業「昭和の紙芝居」に協力、街頭紙芝居のスタイルで、幼児・子どもに向けて紙芝居を実演しています。活動年数はまだ短いですが、大衆文化の継承と紙芝居を通じた世代交流の意義が、奨励賞受賞につながりました。

今年度も、全国よりすばらしい候補者の推薦がよせられました。第一次選考会、選考委員会ともに、苦勞しての選考となりました。ご推薦いただいたみなさまへ、感謝申しあげます。

贈呈式は11月2日(木)、午前11時より、東京都千代田区神田神保町の出版クラブビルで開催します。本年は4年ぶりに、これまでの受賞者のみなさんにもお声かけし、贈呈式後の祝賀会も開催いたします。



私のペースで しおりは進む

2023・第77回 読書週間

10/27～11/9

「全国読書グループ調査」実施中

全国の公共図書館・類縁機関のご協力をお願いいたします！

公益社団法人 読書推進運動協議会は、全国公共図書館協議会の全面的な協力のもと、都道府県立中央図書館および各道府県読書推進運動協議会へ、「2023年度全国読書グループ調査」への協力をお願いと実施要領を9月25日付けでお送りし、管内公共図書館・類縁機関への調査票の配布をはじめとする調査への協力をお願いいたしました。

前回2018年度にご協力いただいた図書館・類縁機関につきましては、ご回答データを基にした調査票を用意しましたので、データの訂正・追加をお願いいたします。エクセル形式の調査票も用意してありますので、ご希望の場合は事務局までご連絡ください。今回、新規で回答される図書館・類縁機関には、新規調査票をお送りしています。調査要領・新規調査票は、当協議会ホームページにも掲載していますので、必要に応じてご利用ください。

2018～2023年は、新型コロナウイルスによる行動制限期間が含まれており、読書グループの動向にも大きな影響があったかと思えます。今回は特別に「新型コロナウイルスによる休止期間」の項目を設け、2020年4月(第1回の緊急事態宣言発令)以降、現在までのコロナの影響による活動休止期間も調査し、調査報告書『全国読書グループ総覧』(2024年度発行予定)で集計結果を発表いたします。

現在、該当グループがない場合の回答方法について、複数の図書館・類縁機関より「調査票の郵送は必要か」とのお問い合わせをいただいております。当協議会への直接回答(都道府県立図書館を通さない場合)は、メール、電話などで「該当なし」とお知らせいただく形でも結構です。

調査票の訂正についての「質問もありました。紙の場合は訂正線と赤字の記入、エクセルの場合は上書きでお願いします。」

図書館・類縁機関のみなさまには、苦勞をおかけしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「BOOK MEETS NEXT 2023」

書店の魅力を知ってもらおう イベントを開催

出版社、書店、取次など出版業界が推進する秋の読書推進月間「BOOK MEETS NEXT 2023(主催：同運営委員会)」の概要が発表された。

「BOOK MEETS NEXT」の期間は、「読書週間」初日の10月27日(金)から11月23日(木)の間、「ひとりでも多くの人に書店や本の魅力にあらためて気づいてもらい、書店に足を運んでもらう」をテーマに、東京・中部・関西での大型イベントや全国の書店店頭イベントを行う。

メインイベントは、11月8日・9日の「KYOTO BOOKS UMMIT」(京都府)で、この両日は京都市内各所で作家による講演や対談、「本屋大賞」展示などが行われる。参加は無料だが、一部のプログラムは事前の参加申し込みが必要となる。申し込みが

日本取次協会 読書推進事業

20年以上続く、全国書店店頭での「読み聞かせ会」が今年も開催

一般社団法人 日本出版取次協会(取協)は、10月27日(金)から始まる「BOOK MEETS NEXT 2023」にあわせ、「第22回 取協読書推進事業『読み聞かせ会』」を全国の書店で開催する。

この「読み聞かせ会」は、読み聞かせによる書店店頭の活性化と読書推進事業を目的に、取協創立50周年記念事業として2000年に開催され、以降毎年、開か

必要なプログラムは、今村翔吾さん講演会「100年後の本のために」、池上彰さんと増田ユリヤさんの対談、小泉今日子さんと大島真寿美さんの対談など。その他プログラム、申し込み方法は「BOOK MEETS NEXT」ホームページにて確認できる。

そのほかの地域でのイベントは、詳細が決まり次第、「BOOK MEETS NEXT」ホームページで紹介される。

●「BOOK MEETS NEXT」ホームページ
<https://book-meets-next.com/>

ナ前の水準以上に参加書店が増える」と期待されている。

読み聞かせ実施日は、参加書店により異なるが、10月28日(土)12月17日(日)までの土曜・日曜・祝日。会場では付き添いの保護者対象にアンケートを配布し、回答を次の読み聞かせ会開催に反映させる。アンケート回答者には、抽選で図書カードNEXTがプレゼントされる。

取協では「開催の案内を店頭で見かけたら、ぜひ、お子さんとご参加を」と、呼びかけている。

「第56回 造本装幀コンクール表彰式」

著者の思いを本の形に！ ブックデザインの豊かさを実感



今年の受賞者と選考委員長

第56回「造本装幀コンクール」の表彰式が9月22日(金)、千代田区神田神保町の出版クラブビルで行われた。日本書籍出版協会・日本印刷産業連合会が主催し、出版物について印刷、製本、装幀、デザインなどの観点から評価、顕彰するアワードだ。今回は315点の応募のなかから22の賞(1点ダブル受賞のため受賞作は21)が選出された。各賞の表彰に続いて、審査員が選ぶ「三賞」の受賞者代表が謝辞を述べた。文部科学大臣賞の『海の庭』(国書刊行会)については

装幀の泉屋宏綱さんが、著者の大前粟生さんがそろって登壇、掛けあい漫才のようなトークで会場を沸かせつつ、受賞したユニークな歌集について、本づくりに込めた思いを語った。

竹民子さんとの出会いと縁についての思いと、その思いをいかにブックデザインの形にしているたかを語った。経済産業大臣賞の『MARUHIRO BOOK 2010-2020, 2021-』(マルヒロ)においては、長崎で波佐見焼の食器などの企画販売をしているマルヒロ社の荒木里奈さんが、社長からの突然の命を受けてこの本づくりに携わった苦労と達成感をスピーチ。東京都知事賞の『柴犬二匹でサイクロン』(書肆侃侃房)では、装幀の牧寿次郎さんと、著者の大

三賞については審査員長の浜田桂子さんが「審査は多数決では決めず、全員が意見を述べ、あうなかで着地を見つけていく」と述べていたが、受賞作からは、まさに本づくりの「課程」と、造本装幀という着地の「形」のかぎりない可能性と魅力をみせてもらったと、

装幀の牧寿次郎さんと、著者の大前粟生さんがそろって登壇、掛けあい漫才のようなトークで会場を沸かせつつ、受賞したユニークな歌集について、本づくりに込めた思いを語った。



全応募作も紹介されるているクラブライブラリーでの展示

さて、後援団体賞として毎回1点選出している「読書推進運動協議会賞」について今回は菅澤泰樟・装幀、佐藤卓・著の、『マークの本』(紀伊國屋書店)を選出したことは既報の通りである。装幀の世界では大ベテランであり、多くの著名作家からの信頼も厚い菅澤泰樟さんが出席、ご本人に賞状と記念品をお渡しすることができた。

他の賞については、コンクルールの公式サイトを参照のこと。
(<https://www.jpba.or.jp/zohon/zohon-winning.html>)
なお、9月22日から10月末の予定で、受賞作品をはじめ全応募作品315点が出版クラブビル、クラブライブラリーで公開展示されている。

「絵本ワールドinひょうご」開催

「アレ記念号」で会場へ？ 絵本ワールドも盛りあがる！



多数の地元ボランティアが大活躍！

兵庫書店商業組合が主催する「絵本ワールドinひょうご2023」が、10月1日(日)、兵庫県西宮市の西宮市民会館で開催された。前日降った雨も朝にはあがり、10時の開場とともに多くの親子連れが訪れた。

「絵本ワールドinひょうご」は、西宮市民会館と、隣接する六湛寺南公園もイベント会場となり、さまざまなコンテンツが展開された。絵本の展示、販売、原画展や、絵本作家のたかいよしかずさん、森くま堂さんのサイン会には家族で行列する姿が見られた。複数

数のボランティアグループによる絵本の読み聞かせが行われた会場では子どもたちが真剣に聞き入っていた。キャラクターのガーランド作り、オリジナル缶バッジ作り、ラッピング教室、絵本イラストのぬり絵など、趣向を凝らしたワークショップも盛況だった。

六湛寺南公園ではワークショップのテントに加えて、紙芝居の実演が秋空の下おこなわれ、演者たちの熱演、名調子に拍手が沸いていた。

「絵本ワールドinひょうご」は、兵庫書店商業組合が主催であり、日ごろは県内各地で書店を営まれているみなさんが、この日はイベントの運営スタッフやコンテンツにかかわるボランティアとして活動されていた。

ところで会場の目の前が阪神電鉄本線高架線で、この日は阪神タイガースの18年ぶりの優勝にちなんで、特別仕様の「アレ記念号」が運行されていた。黄色に黒の横じまの車体が「絵本ワールド」に花を添えているように感じた。

優良読書グループの歩み (10)

2022年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。

(順不同)

諫早おはなしの会

代表者 関山恵美子

長崎県諫早市

〈推薦〉

長崎県読書推進運動協議会

諫早おはなしの会は、1991年に「おはなし講習会」をきっかけに発足したストーリーテリングの会です。長崎おはなしの会の故大友道子先生のご指導で、月1回「おはなし」を覚えて語る勉強会を実践してきました。語り手になり聞き手になったりして「おはなし」を楽しみ、おたがいの意見交換をしながらレベルアップを目指してきました。

新諫早図書館のオープンと同時に「ごごもの時間」で月2回、たくさんのおはなしと「おはなし」や絵本を楽しんできました。これまでに子どもさんや保護者との出会いは、のべ3500人以上となります。また、定期的に小学校や

保育園・幼稚園 高校生やデイケアの高齢者のみなさまにも語ってきました。市内の小学校で朝の読書の時間に定期的に「おはなし」を語り続けているメンバーもおり、その活動は25年以上になります。

ストーリーテリングは、読み聞かせとは違い、絵の力を借りず聞き手のひとりひとりが想像力を働かせて「絵を描く」感じの捉え方なので、ことばの美しさを損なわないようにしていねいにお話するよう心がけています。日本の昔話・民話・世界の昔話、そして、アンデルセンやグリム童話・創作童話などもたくさん語ってきました。図書館での「子ども読書の日はおはなし会」や「夏のおはなし会」、「諫早図書館フェスティバル」でも「おはなし」を届けてきました。

「作品を覚えて語る」という地道な活動ですが、月1回の定例勉強会も300回を超えました。最近はおはなしの「おはなし」に入り込んで感動する子どもたちの姿に私たちが癒されています。

このところコロナの影響で思うように活動できませんでしたが、毎月の勉強会は中断することなく続けてきました。「オンライン」があたり前になりつつある今日、ますます、目と目をあわせて表情を見ながら生の声で語る「おはなし」をじっくり聞いて楽しむ時間がいかに大切なものかということを確認しています。

私たち「諫早おはなしの会」は、これからも世界中のたくさんの方々に「おはなし」を語り、聞いてくださる方々との出逢いを大切に、地道に活動を続けていきたいと思っています。

スター☆ガール

代表者 新堀 律子

埼玉県鶴ヶ島市

〈推薦〉
埼玉県読書推進運動協議会

スター☆ガールは、2003年の図書館主催の児童文学講座で、自分探しや自分らしく生きることを描いたヤングアダルト(以下YA)小説にふれ、奥の深い児童文学をもっと楽しみたいという受講者の声でスタートしました。会の名前は講座で取りあげたジェリー!

スピネッタの同名小説(理神社)の主人公の破天荒で自由な生き方に共感してつけられました。活動は中央図書館で、毎月第4火曜日の午前中に集まっています。海外のYA図書を中心に毎月1冊を選び、各自がそれぞれ本を読んだ感想や意見の交換を行っています。出席者や感想の簡単なメモなどを毎回ノートに書いて、みんなで評価の★(5が最高)をつけています。

読む本は、YA文学書評誌『BOOKMARK』や児童文学を紹介する本などで選書しています。図書館の相互貸借制度を利用して、2か月前に予約し、1か月前の会の日に受け取って、読書会の当日、返却します。新型コロナウイルスで感想を送りあいました。

新型コロナウイルスで中止されるまでは毎年、図書館まわりの実行委員として、これまで読んだ本に紹介文をつけて展示(貸出可)したり、それらの本を2〜3冊ずつ袋詰めして貸し出す「本の福袋」企画などを行っていました。あわせて、読んだ本の舞台となった場所を記した世界地図を掲示しました。また毎年、サークルの紹介や会員登録を兼ねて、これまで読んだ本の

リストを作成・配布していました。2009年の図書館まつりでは、子どもゆめ基金をいただき、翻訳家の金原瑞人氏の講演会を開催しました。その際、鶴ヶ島市立図書館所蔵の同氏の訳書をリストにまとめ、参加者に配布しました。現在は9名で活動しています。読書会では必ずしも想像したおりの感想が出るとはかぎらないところがおもしろく、また、その人の意外な面が垣間見えることなどが、複数人で行う魅力となっています。読書会がなければ読まなかったという本もあり、読書の幅が広がりました。ありがたいことです。これからもなかよく楽しく続けていきたいと思っています。



YA小説の魅力が結びつけた仲間とともに



ふくろうも
びっくり?

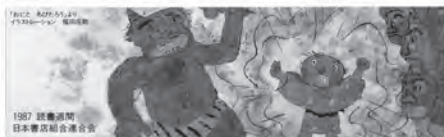
「読書週間」 しおりコレクション

愛知県名古屋市の非営利ギャラリー「しおりのアトリエ」の、9月～10月の企画展「図書館と読書週間のしおり」で展示された貴重なしおりを一部、ご紹介します!

しおり提供：豊嶋利雄さん
(しおりコレクター)



介昭和初期、日本図書館協会が主催した「図書館週間」のしおり。「読書に孤独なし」の標語が印象的です。各図書館のスタンプを押して、配布していたようです。



◀◀日本書店商業組合連合会(当時は日本書店組合連合会)は、1970～1980年代、しおりを複数デザイン用意して「読書週間」を盛りあげました。1977年は滝平二郎さん、1987年は福田庄助さんのイラストです。



しおりのアトリエ
<https://www.canalbookmark.com/>



第66回「こどもの読書週間」

第78回「読書週間」

2024年4月23日～5月12日

2024年10月27日～11月9日

標語募集!

2024年第66回「こどもの読書週間」と第78回「読書週間」の標語を募集します。

この標語は12月中旬に公益社団法人 読書推進運動協議会の事業委員会で選定し、それぞれのポスターに刷り込んで全国の新聞社・雑誌出版社へ、また道府県読書推進運動協議会、都道府県立図書館を通じて公共図書館などへ、全国学校図書館協議会を通じて全国の学校へ、出版取次各社を通じて全国の書店に送られ掲出されます。

第66回「こどもの読書週間」のポスターは、昨年に続いてザ・キャビンカンパニーのイラスト・デザインを予定。秋の「読書週間」は、4～6月に募集するポスターイラストとの親和性を高めるため、この時期に標語を募集します。これまでの標語は、当協議会ホームページでご覧いただけます。

●《応募要項》

- ①標語案はどちらでも、読書の豊かさ、奥深さ、楽しさ、有用性などを新鮮な感覚で表現した未発表のもの。「こどもの読書週間」標語は、「こどもの読書」を念頭に「応募願います」。
- ②応募用紙は官製はがき、A4判ファックス用紙、メール
- ③応募作品数 ①「こどもの読書

週間」「読書週間」とともに、ひとり3作まで応募可。返却はいたしません。学校など団体での応募は、下選考をお願いします。

(入選作の版權は公益社団法人 読書推進運動協議会に帰属) ④締切 2023年11月10日(金) 必着

⑤賞 ①「こどもの読書週間」「読書週間」それぞれに、賞を用意します。▼入選(1作) 図書カード1万円分、標語として採用▼次点(2作) 図書カード5千円分▼佳作(20作前後) 図書カード2千円分

⑥発表 ①入選・次点まで「読書推進運動」1月発行号紙上、佳作は賞券送付

⑦送り先 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル6階 公益社団法人 読書推進運動協議会

「こどもの読書週間」標語係 または「読書週間」標語係 (どちらへの応募か明示してください) FAX 03-5244-5271 メールアドレス hyogo@dokusyo.or.jp 件名は「こどもの読書週間標語応募」または「読書週間標語応募」

事務局報告(9月)

☆7日 機関紙「読書推進運動」670号 入稿

☆8日 「読書週間」ポスター 出来

☆8日 機関紙「読書推進運動」670号 責了

・8日 「子ども読書の日ポスター」について、とよたかずひこさん、文部科学省と打ちあわせ

☆11日 「優良読書グループ表彰」推薦 締め切り

☆13日 14日 第53回 野間読書推進賞の選考会準備

☆15日 第53回 野間読書推進賞選考会 開催

☆15日 機関紙「読書推進運動」670号 出来

・16日 絵本図書館ネットワーク「第1回 文庫で絵本ミーティング」東京出席

☆21日 第53回 野間読書推進賞の受賞者とその推薦者に受賞通知と案内郵送

・22日 第56回 造本装幀コンクール表彰式出席、読書推進運動協議会賞を芦澤泰徳さんに贈呈

☆25日 「2023年度 全国読書グループ調査」調査お願いを各都道府県立図書館・道府県読書推進運動協議会へ送付開始

☆27日 「2024 若い人に贈る読書のすすめ」に関するスケジュールを担当事業委員に通知

☆28日 第3回常務理事会(10月27日)の案内を郵送

・30日 「絵本ワールドinひょうご」立ちあいのため神戸出張

編集部 & 事務局の ひ・と・こ・と

●本紙別冊「2023・第65回」こどもの読書週間行事報告。新型コロナウイルスによる緊急事態宣言の影響が直撃した2020・第62回報告では24ページにまで減少したページ数も、第63回44ページ、第64回52ページ、そして今回は56ページと、コロナ前の分量に戻ってきました。

●その行事報告でも人気の、図書館が用意した紙にオスメの本を書いてもらって壁面に貼るイベント。子どもの読書週間」では、うろこ形の紙をこいのぼりのイラストに貼る、花や花びら形の紙を木のイラストに貼るのが主流です。これが「読書週間」になると、季節柄、りんごやかぼちゃが登場してきます。

●絵本図書館ネットワーク「文庫で絵本ミーティング」に登壇した、原書房の成瀬雅人さん(当会理事もお務めです)。全国の図書館を回っているうちに、ある館の「ボランティア募集」に興味を引かれて、自宅から遠く離れているにも関わらず、その図書館にボランティア登録、その地域を訪れるたびに、時間を捻出して通うように。そんなある日依頼されたのが、「かぼちゃを切ってください」……。なんのことかと思つたら、ハロウィンの飾りつけの紙のかぼちゃ作成だった、というエピソードを会場に紹介してくれました。

●こいのぼりやりんごの木、おはなし会の飾りつけ、クイズの問題作りや最近人気の推薦図書ガチャなど、各行事にかかる手仕事の量は、どれほどなのか。あらためて現場の苦勞に頭が下がる「読書週間」です。(伸)